

香港株式市場フラッシュ

香港株は「金融相場」入り示唆～テック大手と不動産が牽引

リサーチ部 笹木和弘

Tel: 03-3666-6980

E-mail: kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

フィリップ証券株式会社

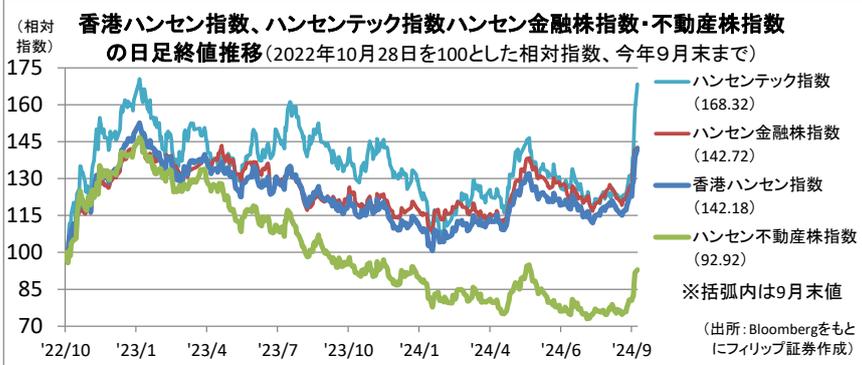
2024年10月2日号(10月2日作成)

“歴史的株高の香港・中国株～テック大手と不動産が牽引”

香港株式市場は中国当局の相次ぐ発表を受け、歴史的株高局面に転じている。24日に打ち出した主な追加刺激策は、①金融緩和(預金準備率引き下げ、7日物オペ金利引き下げ、中期貸出ファシリティ金利引き下げ)、②株価対策(政府系ファンド投資拡大、自社株買い向け3000億元資金枠設定、株式等担保の5000億元資金枠設定)、③不動産対策(住宅頭金比率の引き下げ)だ。

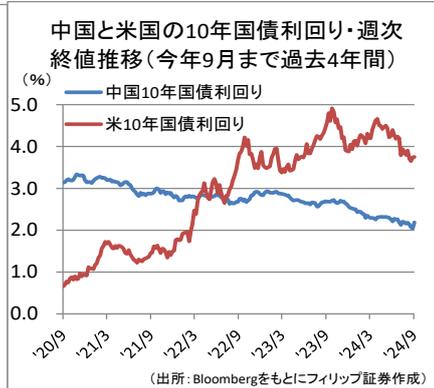
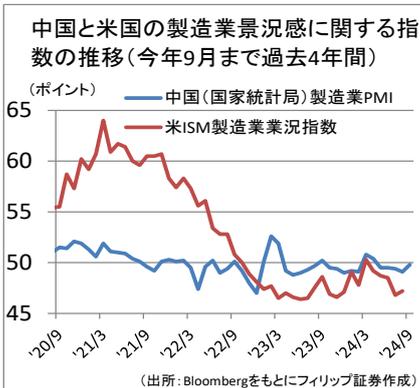
更に26日、中国共産党が中央政治局会議を開催。住宅市場低迷に歯止めをかける方針と同時に、必要な財政支出を確保すると決めた。これに呼応して中国財政省が今年約2兆元(約41兆円相当)の特別国債発行を検討と報じられた。消費刺激目的に1兆元、地方政府の債務問題対応支援に向けて1兆元とみられている。

党中央政治局会議では、住宅市場のほかに「経済の健全な発展のためには『民営経済促進法』の導入が必要」との見解が示された。商業銀行に対して民間企業への融資比率などを定める可能性がありそうだ。アリババ集団傘下の金融会社上場延期や未成年者のオンラインゲーム利用規制などテック大手への規制強化が投資家の買い意欲を低下させていたことからの反動高もあり、中国の主要ハイテク銘柄で構成されるハンセンテック指数は、9/30終値が23日終値比28.5%上昇。また、追加刺激策の恩恵が期待される不動産株はハンセン不動産株指数が同15.6%上昇した。これらに対し、銀行株はハンセン金融株指数が同12.0%上昇にとどまった。



“一連の景気刺激策と株高は「金融相場」サイクルを示唆”

株式相場には一般に、「金融相場」「業績相場」「逆金融相場」「逆業績相場」の4つの相場サイクルがあるとされる。金融相場では、不景気で企業業績が悪化後、政府が景気と株価を刺激するため景気対策を講じ、中央銀行が金融緩和を行うことでカネ余りを背景とした「不景気の株高」が発生する。中国の一連の景気刺激策と株高は金融相場サイクル入りが見られる。他方、米国経済は製造業の活動拡大・縮小の境界を表す景況指数50を割れているものの、長期金利が低下に転じて間もないため、企業業績はまだ悪化してない。金融引締めからの「逆金融相場」から、その効果で景気下降・企業業績悪化が始まる「逆業績相場」との中間的位置付けの可能性もある。相場サイクルでは香港・中国株が米国株に対し優位に転じた余地もあろう。



ハンセン指数またはハンセンテック指数構成銘柄(全96銘柄)における終値の昨年末来騰落率

前回基準日: 20240917 基準日: 20241001

順位	2023年末来騰落率・上位10銘柄 (%)	前回順位	
1	Meituan (美团)	110.0	2
2	中国宏橋集団[チャイナ・ホンチャオ・グループ]	107.8	1
3	ピリピリ	107.1	15
4	携程旅行網[トリップドットコムグループ]	76.9	6
5	中国人寿保険[チャイナ・ライフ・インシュアランス]	61.0	21
6	中国海洋石油[CNOOC]	60.4	3
7	騰訊控股[テンセント・ホールディングス]	52.7	7
8	JDドットコム	52.7	43
9	中国平安保険(集団)[ピンアン・インシュアランス]	52.0	35
10	招商銀行	50.5	26

順位	2023年末来騰落率・下位10銘柄 (%)	前回順位	
96	薬明生物技術[ウーシー・バイオロジクス・ケイマン]	-40.9	96
95	East Buy Holding Ltd	-28.9	95
94	理想汽車	-26.5	92
93	Budweiser Brewing Co APAC Lt	-25.7	86
92	恒隆地産[ハンロン・プロパティーズ]	-23.5	87
91	蔚来汽車[ニオ]	-21.4	85
90	Nongfu Spring Co Ltd(農夫山泉)	-20.9	88
89	周大福珠寶集団[チャウタイフックジュエリーグループ]	-18.6	89
88	金蝶国際軟件集団[キングディー・ソフトウェア]	-18.4	94
87	新世界發展[ニューワールド・デベロップメント]	-18.4	83

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【2024年10月: 中国主要経済指標】

- 9月20日(金)
 - ・1年ローン・プライムレート: 前回3.35%、結果3.35%
 - ・5年ローン・プライムレート: 前回3.85%、結果3.85%
- 9月24日(火)
 - ・預金準備率(大手行): 前回10.0%、結果9.5%
 - ・7日間リバース・レボ金利: 前回1.7%、結果1.5%
- 9月25日(水)
 - ・1年中期貸出ファシリティ金利: 前回2.30%、結果2.0%
- 9月27日(金)
 - ・1-8月工業利益<前年同月比>: 前回+3.6%、結果+0.5%
- 9月30日(月)
 - ・9月製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回49.1、結果+49.8
 - ・9月非製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回50.3、結果+50.0
 - ・9月(財新)製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回50.4、結果+49.3
 - ・9月(財新)サービス部門PMI: 前回51.6、結果50.3
- 10月7日(月)
 - ・9月外貨準備高: 前回3.28兆USD
- 10月13日(日)
 - ・9月消費者物価指数(CPI)<前年同月比>: 前回+0.6%
 - ・9月生産者物価指数(PPI)<前年同月比>: 前回▲1.8%
- 10月14日(月)
 - ・9月貿易収支: 前回+910億USD
 - ・9月輸出<前年同月比>: 前回+8.7%
 - ・9月輸入<前年同月比>: 前回+0.5%
- 10月9日(水)-15日(火)
 - ・9月資金調達総額: 前回21.90兆元
 - ・9月新規人民元建て融資: 前回14.43兆元
 - ・9月マネーサプライM2<前年同月比>: 前回+6.3%
- 10月18日(金)
 - ・9月小売売上高<前年同月比>: 前回+2.1%
 - ・9月鉱工業生産<前年同月比>: 前回+4.5%
 - ・1-9月不動産投資<前年同月比>: 前回▲10.2%
 - ・1-9月固定資産投資<前年同月比>: 前回+3.4%
 - ・9月新築住宅価格<前月比>: 前回▲0.73%
 - ・9月住宅販売面積<前年同月比>: 前回▲25.0%
 - ・9月調査失業率<前年同月比>: 前回5.3%

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

- ・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。